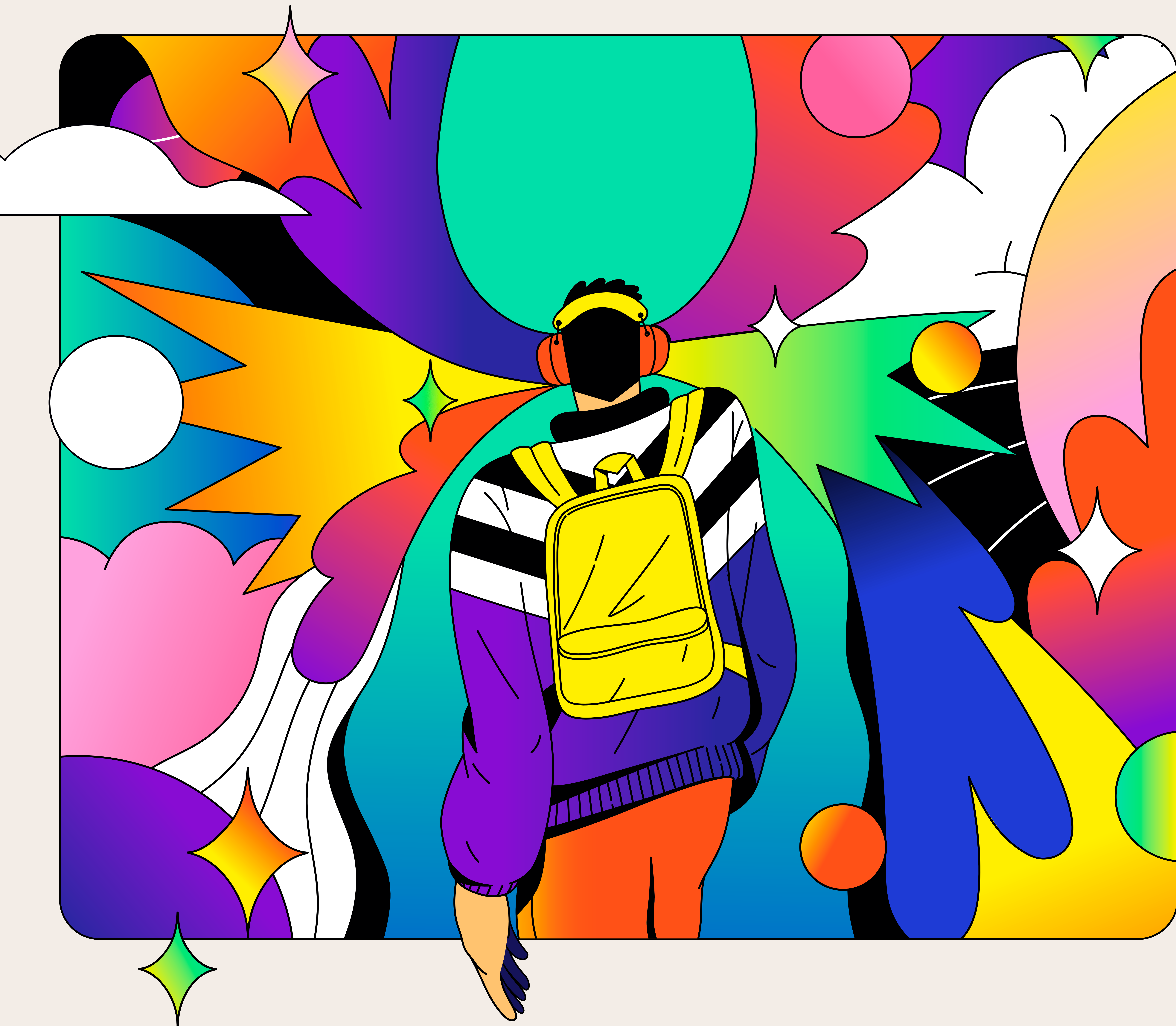




リファーマービッツシュで
世界は大きく
変わっていく

Hello, we're Back Market

10年間の歩み



Back Marketは、スマートフォンやPCなどの電子機器のリファーマービッシュ品（整備済製品）を取り扱う世界最大級のマーケットプレイスです。

Back Marketは、検査、修理、整備のプロセスを経て、再生したデジタルデバイスを利用するという選択肢を、お客様にご提供しています。

この取り組みにより、製品寿命を延ばすことに貢献しています。

テクノロジーの進化は 人間の生活を ガラリと変えてしまった

テクノロジーがもたらした変化

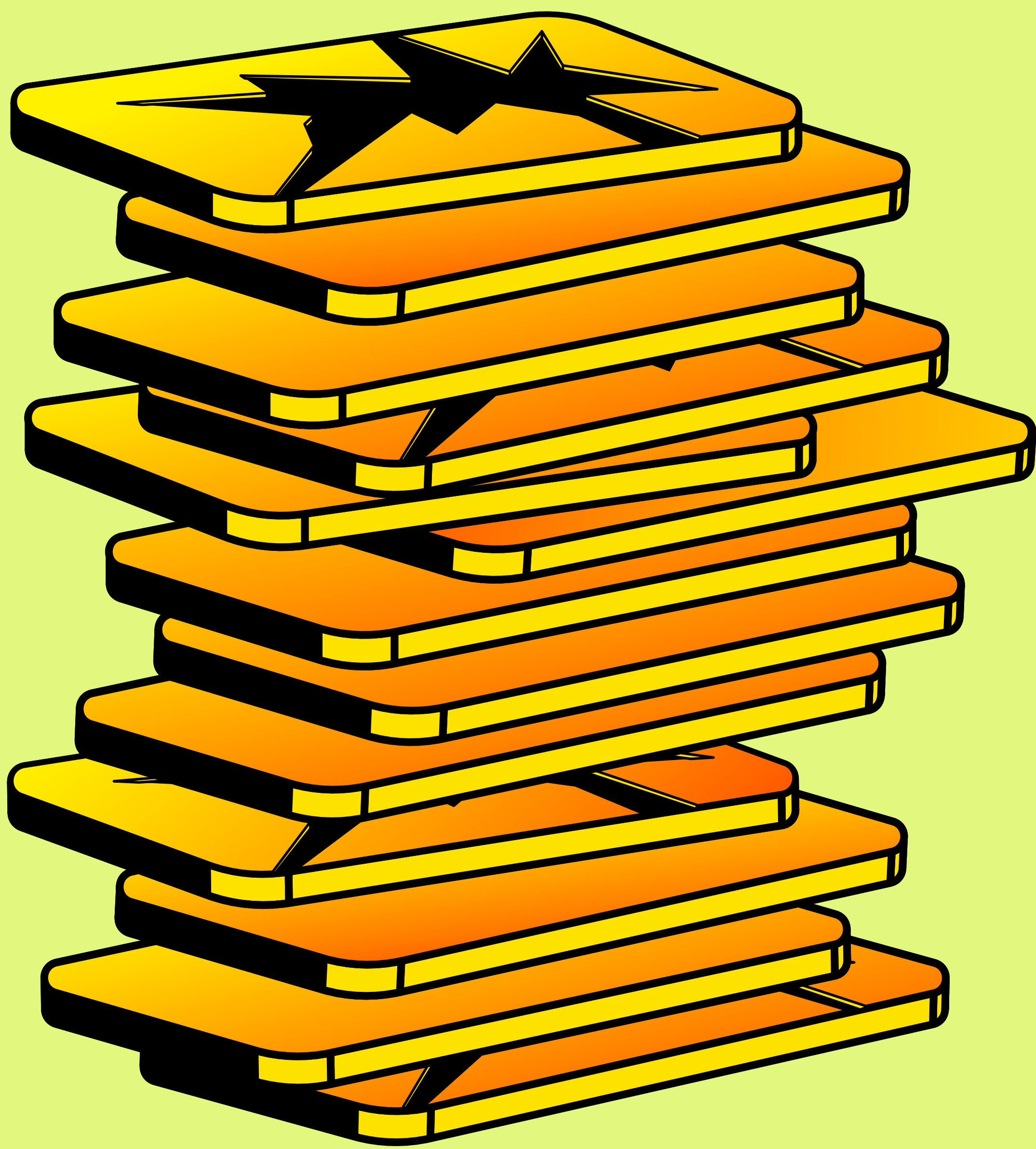
今や、スマートフォンをタップするだけで出前の注文ができます。画面をスワイプすれば、最新型の4KHDトリプルレンズのカメラが出現します。かつては夢だったことが、今では当たり前の現実となりました。

しかし忘れてはいけないのは、最先端テクノロジーによる恩恵を享受できるのは、刹那的だということです。地球環境に与える負荷は、長期間にわたり続きます。

たとえば、スマートフォンやノートパソコンでいえば、過剰な消費は大量生産を引き起こし、資源の枯渇につながります。



1,512トン



2023年にBack Marketにより
削減できた電子廃棄物*

*2023年1月1日～2023年12月31日までにBack Marketで販売された4,632,866台のリファービッシュ品（整備済製品）により削減された電子廃棄物。ADEMEによる調査「リファービッシュ品が地球環境に与える影響についての評価」による。（2022年9月）

もし何も手を打たなければ、デジタル産業に起因する二酸化炭素排気量は2040年には、現在の4倍になる¹ と予測されています。

さらに深刻なことに、処理しきれない電子廃棄物が増え続けています。電子廃棄物は、世界で最も増殖している固形廃棄物ですが、その勢いは、ファストファッションの廃棄物をはるかに上回ります。

さらに衝撃的な事実として、廃棄されるデジタルデバイスのほとんどは、まだまだ使えるものばかり、という現実です。

とめどなく続く
大量消費の連鎖を断ち切り、
今あるものを大切にする
新しい消費行動を広めていきたい。
こうしてBack Marketが
誕生しました。



リファーマビッシュから始まる 新しい世界

Back Marketは、ユーザーとリファーマビッシュ品（整備済製品）の販売者をつなぐプラットフォームです。フランスでスタートしたこの取り組みは、今では世界中に広がりました。利用者は、1,300万人以上にものぼり、現在も増え続けています。

リーズナブルなデジタルデバイスを安心して購入だけでなく、地球環境に与える負荷を減らすことにも貢献できる仕組みです。

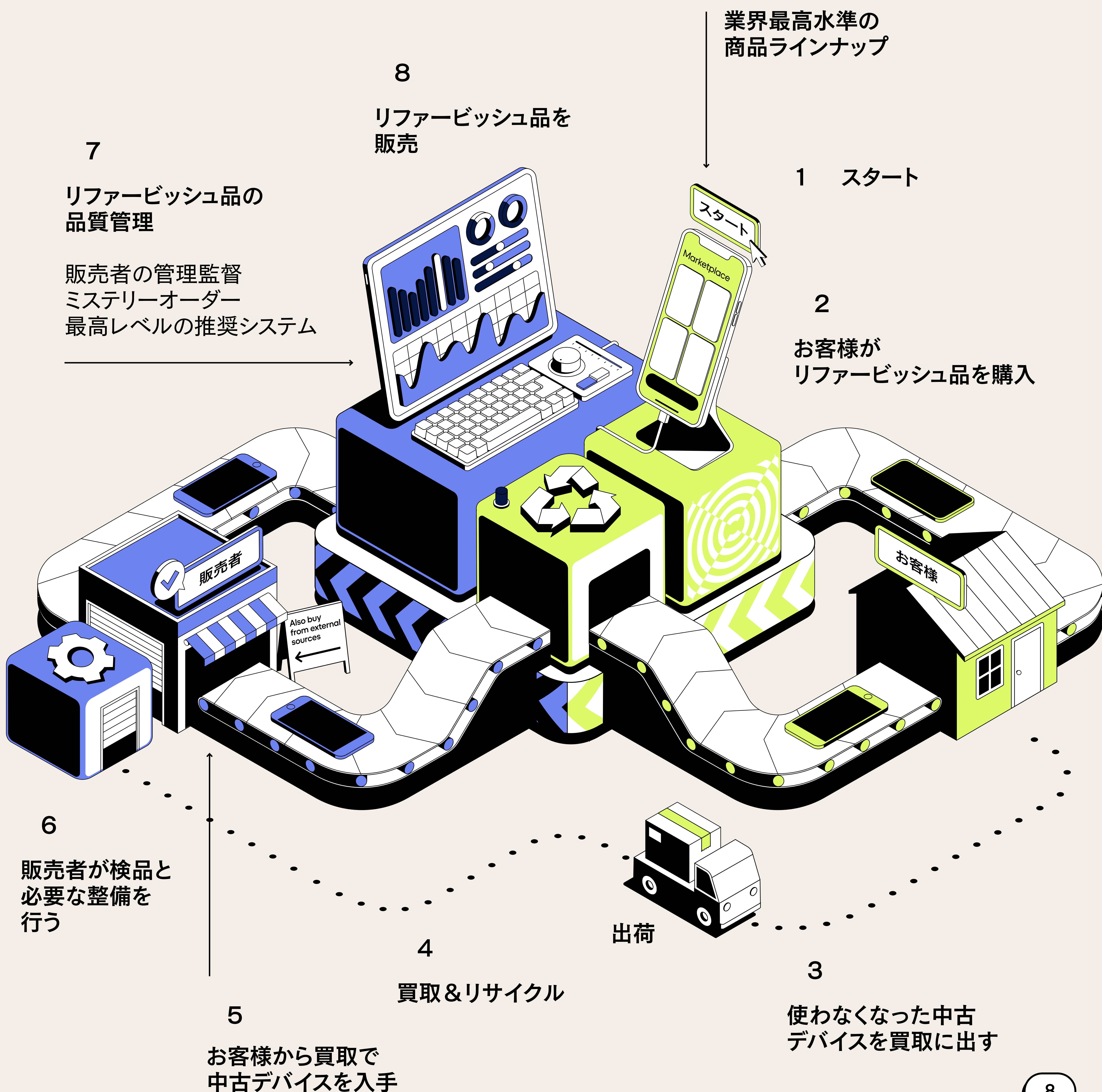
販売者はスマートフォン、パソコン、スマートウォッチのいずれも28項目以上の検査項目をクリアすることはもちろん、Back Marketの厳格な品質基準を満たす必要があります。



Back Marketの販売ページで「Back Market認定リファーマビッシュ品」と表示される商品は、動作基準および外観のいずれにおいても、最高水準の条件を満たしています。

Back Marketだけのサービスは、他にもあります。購入後の特別なサポートプログラムとして、延長保証をオプションで追加できます。また、買取や返品も可能です。私たちは、あらゆる方法で、循環型経済を実現可能なものにするために、リファーマビッシュ品（整備済製品）の普及に取り組んでいます。

Back Marketの ビジネスモデル



2014年の創立以来 Back Marketの成果

マーケットプレイスにおける成果



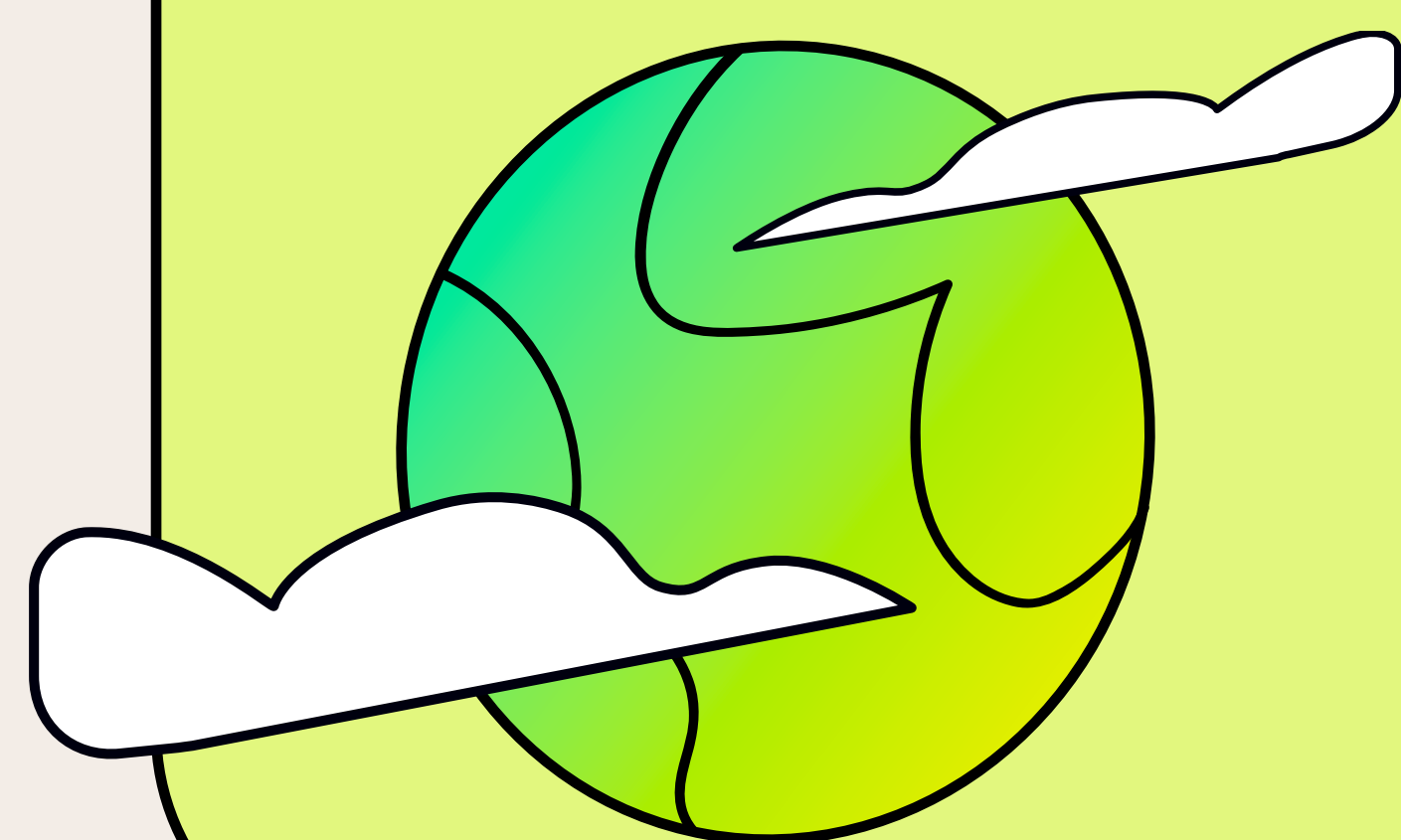
100万台 以上

買取で集めたデジタルデバイス



1,700

優良な販売者の
ネットワーク



1,300万

全世界のユーザー数

会社としての成果

130万トン以上を削減

2014年以來の二酸化炭素換算量

雇用における成果

700

人以上

従業員の雇用

イノベーション・ラボを設立

米ニューヨーク
&
仏ボルドー

7カ国

オフィスを設立

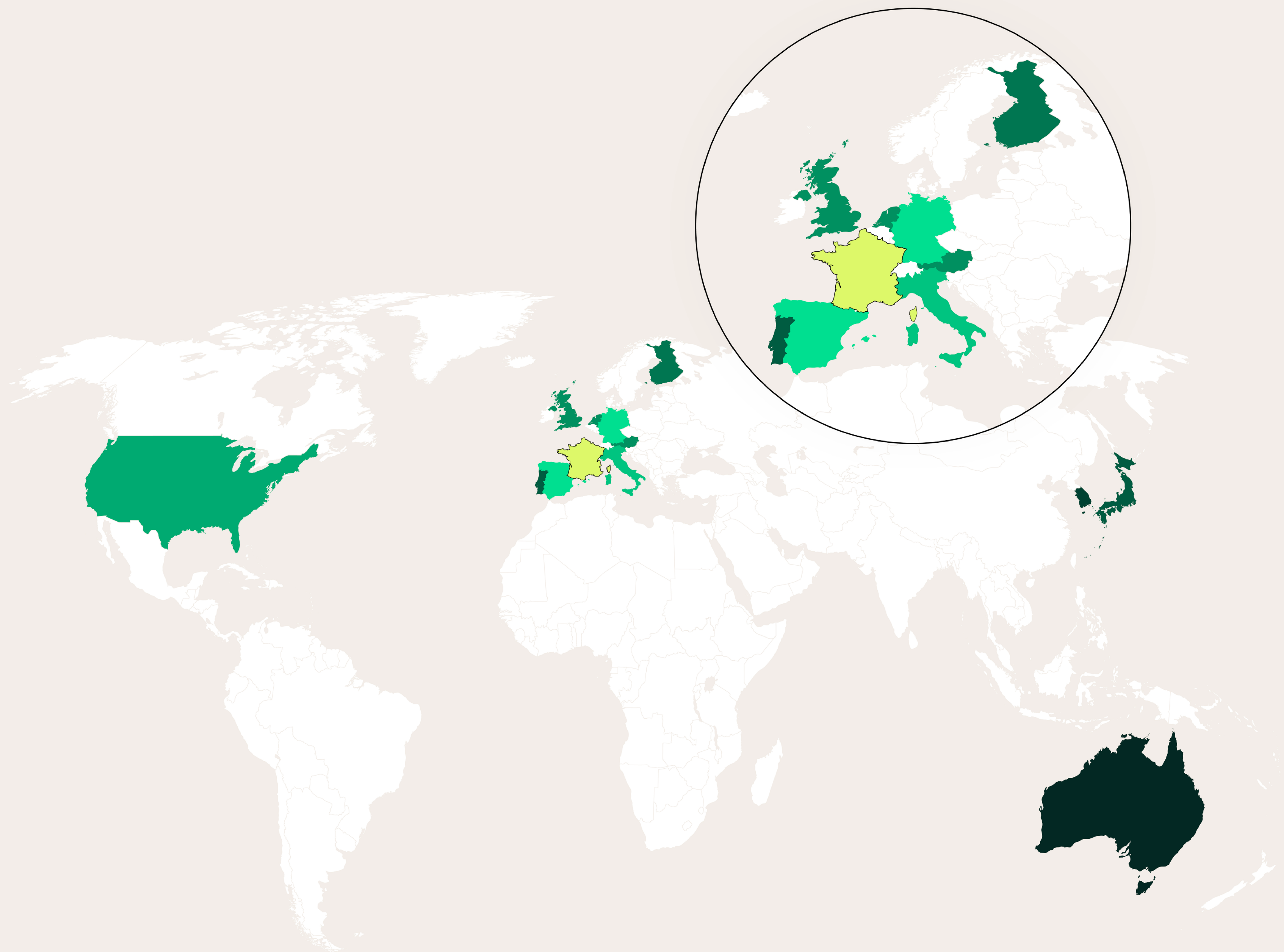
18カ国

Back Marketが利用可能

45カ国

従業員の国籍

Back Market 10年の軌跡



2014年11月

Back Marketの
フランス本社開設

2017年9月

イタリアでサービス開始

2020年3月

オーストリア、
イギリス、オランダで
サービス開始

2021年3月

日本とポルトガルで
サービス開始

2023年10月

オーストラリアで
サービス開始

2016年5月

スペインとドイツで
サービス開始

2018年2月

アメリカで
サービス開始

2021年1月

フィンランドで
サービス開始

2022年3月

韓国で
サービス開始

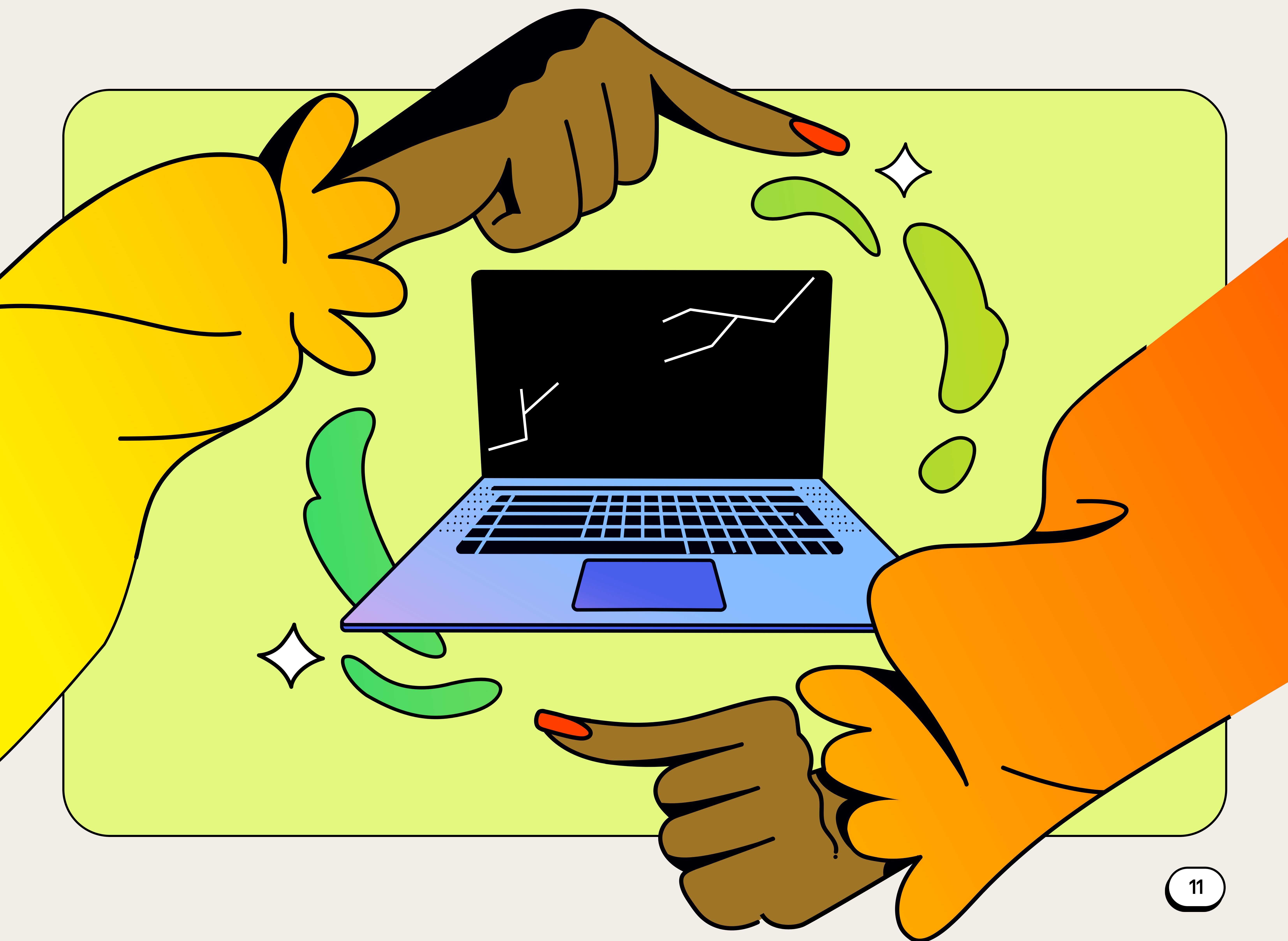
ミッション

リファーマービッシュ（整備済製品）で世界を変えていく。
その決意を胸にBack Marketを創業してから2024年で10年目を迎えます。この機会に、より野心的な新たな目標を設定しました。

私たちのミッションは、修理と再利用でデジタルデバイスの寿命を伸ばすことが当たり前となる風潮をつくることです。その結果、デジタル産業が地球環境に与える負荷を飛躍的に軽減できます。

世界の二酸化炭素排出量のうち、デジタル産業に起因する割合は2040年までに14%になると予測されています。（航空産業全体よりも多い割合です）²

しかし、現在のスマートフォンやノートパソコンなどのデジタルデバイスの購入方法を新品でなくリファーマービッシュ品（整備済製品）に代替できれば、この流れを食い止めることができるはずと考えています。





Back Marketの最終目標は、デジタル産業において大量消費からサーキュラーエコノミー（循環型経済）に移行していくことです。

新品を購入した時に感じるあの嬉しい気持ちをリファーマビッシュ品（整備済製品）においても同じように感じてもらいたいと思っています。

私たちは、リファーマビッシュ品についてお客様が抱く不安をすべて解消していきます。品質に関する厳格な検査体制の構築や「修理する権利」などの新たな法整備を働きかけることで、リファーマビッシュ品の価値を向上していきます。

新品のデバイスを選ぶよりも、もっといい選択肢があります。

価格を抑えられるだけでなく地球環境への負担も抑えられます。そして、サステナブルな社会にとって、よりよい未来につながります。





ティボー・フグ・ド・ラローズ
Back Market CEO

“

我々のミッションを達成できれば、
この先の5年から10年で、デバイスを修理して
再利用することが当然だと考える生活習慣が
生まれるはずです。

今では、ためらいなく中古車を買う人がほとんど
ですが、デジタルデバイスでも同じように、
新品でなく、リファーマビッシュ品（整備済製品）を
探して買うことが普通になるでしょう。



02

リファーマービッツシュは
未来そのもの

新品のデバイスが 地球環境に 及ぼす影響とは

地球の天然資源は枯渇し、
今や警戒水準にまで達しています。
しかし悲しいことに、こう聞いても、
多くの方は、さほど驚かないでしょう。

でも、次の事実を知れば、
多くの方が衝撃を受けるのではないのでしょうか。
この環境問題を引き起こしている主な原因は、
実は、私たちが日々愛用するスマートフォンなのです。



スマートフォンを1台、生産するたびに
267kgの天然資源が
失われます³。🖱️

アルミニウム、鉄、銅、亜鉛などの古くから使われてきた金属や優れた電気伝導性を持つ金をはじめ、バイブレーション機能に欠かせないネオジムなどが使われます。

28グラム 

100トンの鉱石

ポケットに入るような小さいスマートフォンひとつになぜ267kgの天然資源が使われるのか、不思議に思う方も多いと思います。その理由は、鉱石に含まれる希少金属の含有量が極めて少ないため、必要な原材料がわずかに数グラムだとしても、膨大な量の鉱石が使われてしまうからです。

金を例にして計算すると、28グラムの金を生産するためには100トンの鉱石が必要になります。

これだけの量の鉱石を採掘するとなると自然環境に配慮する余裕はありません。ブルドーザー、ダイナマイト、ドリルなどを使い容赦なく大規模な掘削が行われます。化石燃料を大量に浪費する重機を何台も総動員し森林や景観を破壊し、水質汚染もものともせず採掘に明け暮れることになるのです。

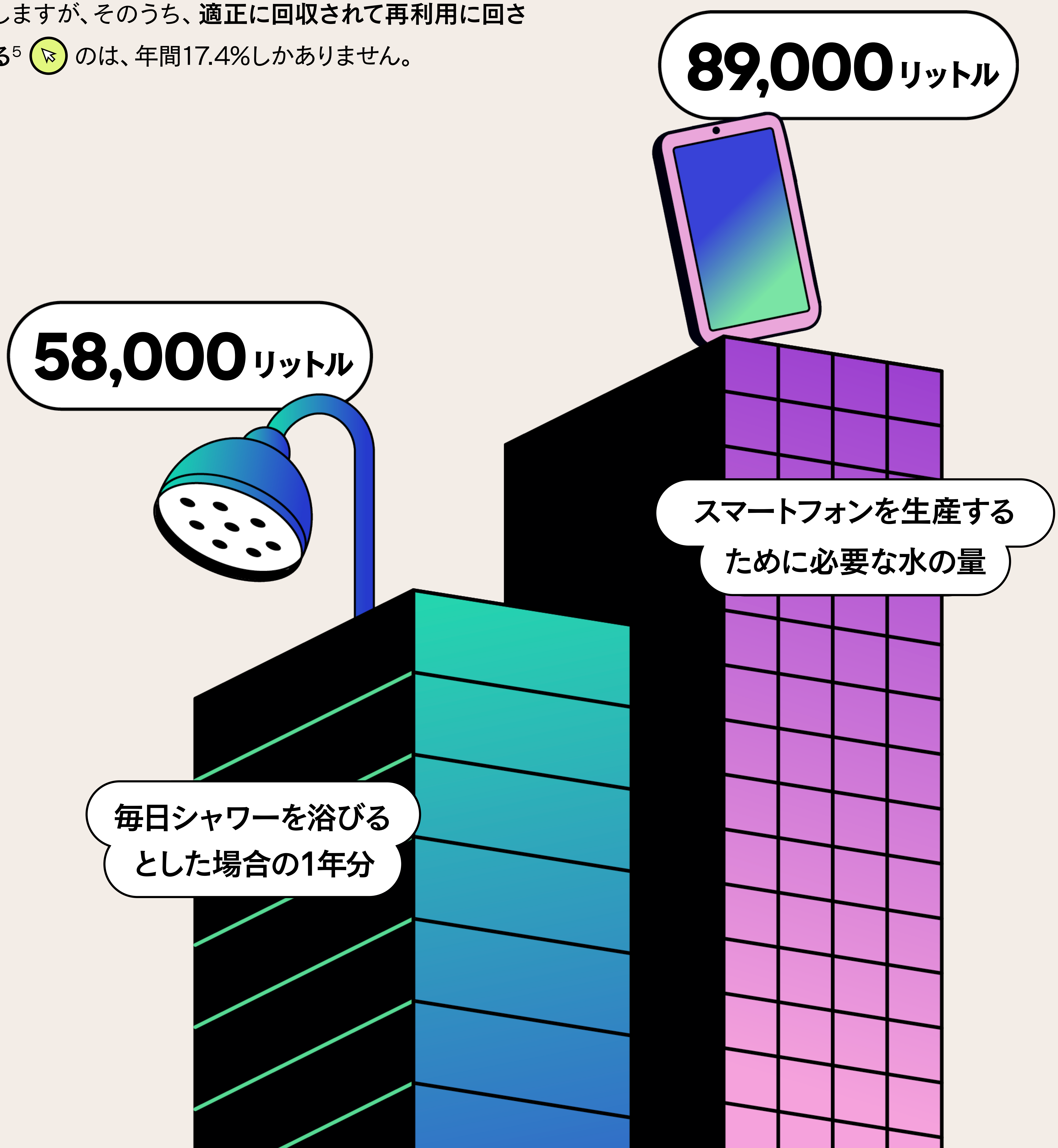
次は、水資源の話です。採掘した鉱石は、水で洗浄してから精製します。

くわえて、スマートフォンの製造過程では、製造システムの洗浄水や冷却水も必要です。これらをすべてあわせると、驚異的な数字になります。たとえば、スマートフォン1台を製造するのに89,000リットル、PC一台では約191,400リットルもの真水が必要です⁴。

さらにいえば、製造工程や廃棄時には電子廃棄物が発生しますが、そのうち、適正に回収されて再利用に回される⁵ のは、年間17.4%しかありません。

残りは、埋め立て処理されることになりますが、有毒な化学物質が流出し、土壌や地下水の汚染を引き起こします。

今や地球全体で水不足が広がっていますが、このデジタル産業が引き起こしている事態は、すでに警戒領域を超えていることは疑う余地のない事実です。



実は、環境負荷を 格段に減らす 方法があるのです

毎年、新品のデジタルデバイスが何10億台も生産され、地球環境の汚染が進行しています。

Back Marketは、この流れを変えるために、すでに流通しているデジタルデバイスの寿命を延ばすことに取り組んでいます。

安心してよりお得にデジタルデバイスを購入できるだけでなく、地球環境の負担も軽減できる。それが、私たちが展開しているリファーマービッシュ品（整備済製品）のマーケットプレイスです。

では実際には、どんな成果が生まれているのでしょうか？それを明らかにするひとつの取り組みが、2020年にスタートしました。

Back Marketは、何社ものリファーマービッシュ品の販売者と連携。デジタルデバイスのリファーマービッシュ品が地球環境にもたらす影響に関する前例のない規模の調査をフランス環境エネルギー庁（通称 ADEME）に働きかけ実現させました。



リファーマービッシュ品（整備済製品）と新品を比べてみたら

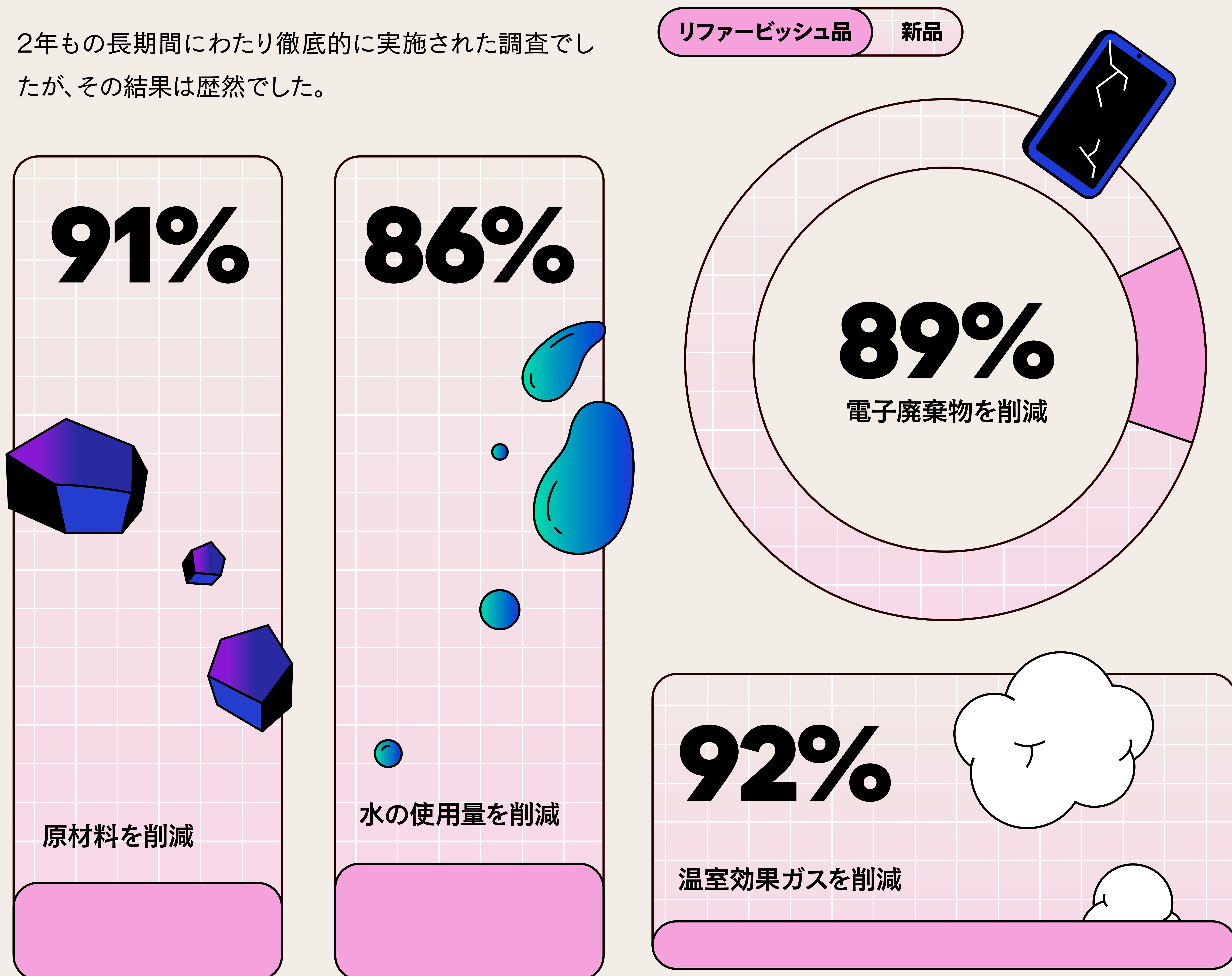
ADEMEの報告書は、スマートフォン、ノートPC、タブレット、そしてデスクトップPCに特化し、新品を製造する原材料の入手から寿命を迎えるまでの全期間を調査対象にしています。

リファーマービッシュ品と新品のそれぞれが、どのような影響を地球環境に与えるのか、総合的な見地で比較できます。たとえば、二酸化炭素、原材料、水の使用量、あるいは、発生した電子廃棄物の量などについても比較が可能です。

2年もの長期間にわたり徹底的に実施された調査でしたが、その結果は歴然でした。

新品を買うよりも、リファーマービッシュ品を選んだ方が地球環境に与える影響が、はるかに軽微だったのです。

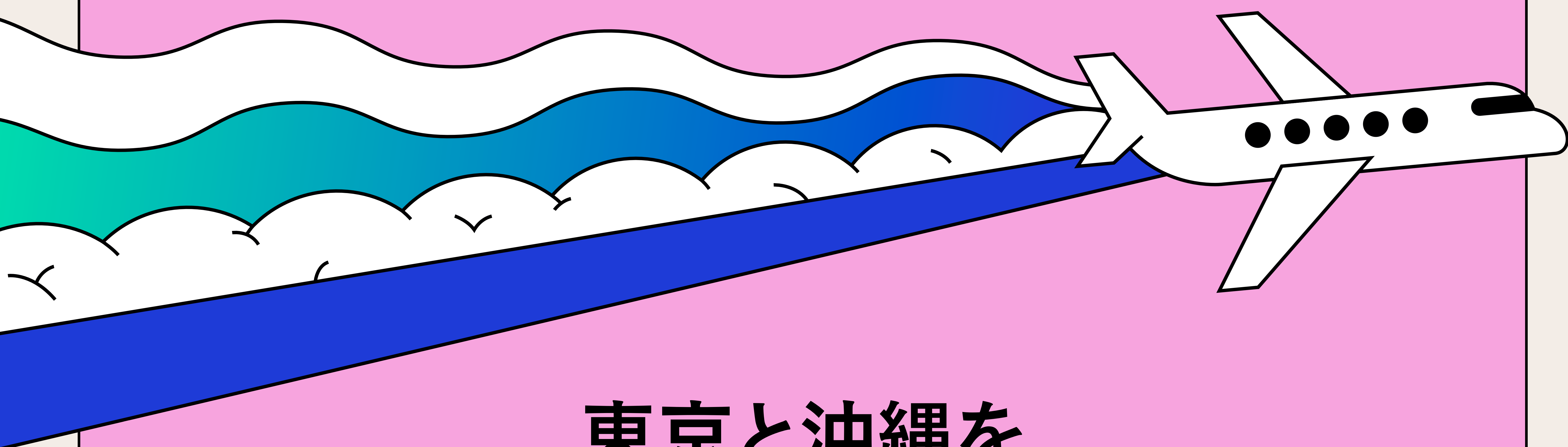
モニターやバッテリーの交換が必要な場合で比較してもリファーマービッシュ品のスマートフォンの方が、地球環境の負荷を圧倒的に軽減していました。天然資源の使用量は、91%減少。水の使用は86%減少、電子廃棄物の発生は86%減少、そして二酸化炭素の排出量は92%減少することが確認されたのです。



2014年以来、Back Marketにおけるリファーマービッシュ品（整備済製品）の流通により、二酸化炭素排出量（CO2e）に換算して130万トンもの排出量の削減効果をもたらしました。

リファーマービッシュ品のデジタルデバイスを選ぶユーザーの数が増えれば増えるほど地球環境に与える負荷がそれだけ減少し、天然資源を守るにつながります。

**130万トンの
二酸化炭素換算量を削減**



**東京と沖縄を
768,400回も往復できます***

* 東京～沖縄間の片道フライトの乗客1人当たりの二酸化炭素換算量である約0.85トンに基づいて算出。

フランスで実施された
ADEMEの調査によれば
フランスではスマートフォンの
平均的な買い替え時期は、
購入後、2年から3年でした。
また、買い替えとなった端末の**80%**は
故障もなく、まだ十分に使える状態でした。

現状を打破するには

解決方法は、自明です。

しかし、習慣化した消費行動を見直してもらいリファーマービッシュ品（整備済製品）を購入することが当たり前だと思ってもらうためにはまだまだ時間がかかります。

ピカピカの真新しいスマートフォンの誘惑にはなかなか勝てません。それを非難するつもりもありません。巨大IT企業は、最新機種さえ購入すれば、人生が豊かになる、というメッセージを発信し続けています。販売店やオンラインストアでは、環境破壊につながる製造工程については、まったく触れようとしていません。

そのため、お客様は、新品を購入することが当然だと思い込んでしまい、それが地球環境の負担につながっているなどとは、夢にも思っていないのです。

しかし、車を購入する時は、どうでしょうか？

おそらく半数以上の人の中古車を望んで購入しています⁶。🖱️

では、スマートフォンの購入も、車と同じようにできないのでしょうか？新品ではなく、リファーマービッシュ品をもっと多くの人を選べば、二酸化炭素換算量で年間5,700万トン以上の排出量が削減できます。地球に眠る貴重な天然資源を守ることもできるのです。

とはいえ、現時点では、高品質なリファーマービッシュ品を手に入れようとしても、まだまだ多くの障壁が立ちはだかっています。その壁を打ち破り、リファーマービッシュ品をもっと普及させるためにBack Marketは、大規模な変革に取り組んでいます。

修理する権利

欧州議会は、修理をせずに新品に買い替える消費行動を続ければ、ユーザーは年間約2兆533億円の損失を被る⁷  という試算を発表しました。

その一方で、最近の欧州委員会の調査⁸  によれば77%の人はデジタルデバイスを修理したいと思っている一方で、高額な修理費と修理を請け負う事業者が少ないことで断念しているという報告もあります。

サーキュラーエコノミー（循環型経済）を実現するためには、デジタルデバイスは修理して製品寿命を伸ばすことが鍵を握っていると、私たちは考えています。

2021年、Back Marketは、「修理する権利」を呼びかける欧州のキャンペーンの運営事務局に参加しました。また2023年には、アメリカでも「修理する権利」を求める運営委員会に加盟しました。



ヨーロッパで、デジタルデバイスの買い替えより
修理を希望している人の割合

「修理する権利」を求める活動により、修理にかかる費用を抑えつつ、お客様が気軽にデバイスの修理・整備を依頼できるような環境づくりをめざしています。

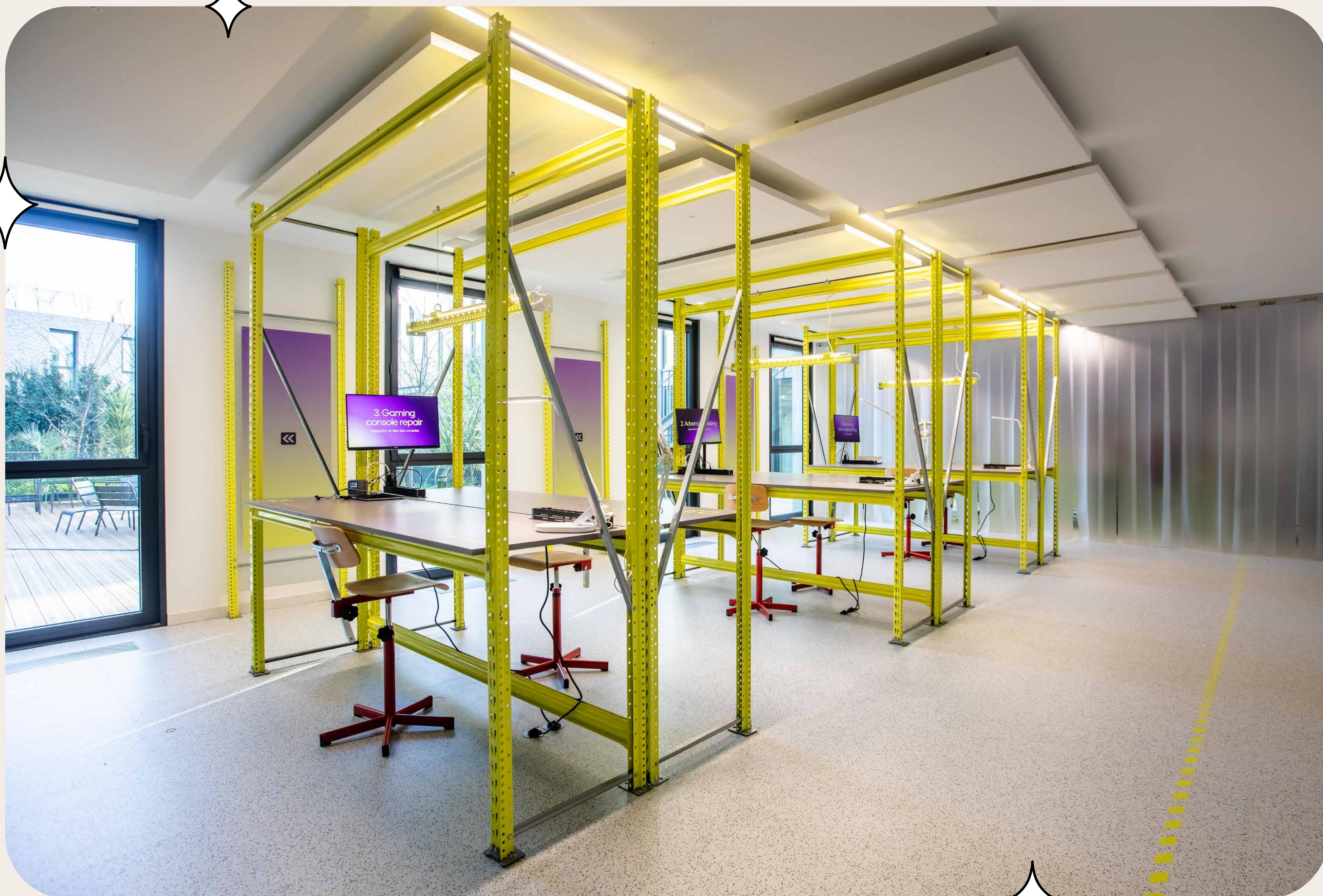
2013年に「修理する権利連合の委員会」が発足し、それを皮切りに機運が大きく高まったことで、世界各国で法律の制定が進みました。あらゆるデジタルデバイスは、修理が容易にできるように製造することが義務づけられていきます。



2021年から2023年にかけて、Back Marketは新たな欧州規制の制定に向けて積極的な働きかけを行ってきました。主には、すべてのスマートフォンやタブレット端末に対し、簡単に分解して修理しやすいことを義務付けるものです。この法律は2025年から段階的に施行される予定ですが、これによりメーカーは修理用の部品を7年間保管し、依頼後5日以内に納品すること、いかなる修理業者に対しても公平に対応することが義務付けられます。

こうした取り組みには一定の成果があると評価はしていますが、公共政策チームは、これだけでは満足していません。

リファーマービッシュ品（整備済製品）についても、顧客の権利の拡大やリファーマービッシュ品を活用する組織への支援などもあわせ、より充実した法整備を求めて欧州の政策立案者に働きかけています。



業界水準を引き上げる

習慣化した消費行動は、容易には変わりません。しかし「品質への信頼」は、大きな分かれ目のポイントです。新品のデジタルデバイスは、リファーマービッシュ品と比べ、外観の輝きも違えば、製品寿命も長いと思われがちです。

しかし現実には、そうとも限りません。デジタルデバイスのリファーマービッシュ品の業界標準が向上し、これが当たり前になっていけば、話は変わります。消費者の習慣も大きく変貌していくのではないかと私たちは期待しています。

Back Marketの イノベーション・ラボ

Back Marketのイノベーション・ラボは意識改革の側と品質管理の両面においてリファーマービッシュ品（整備済製品）の普及促進に取り組んでいます。

調査、コンサルティング、そして徹底的に研修で叩き込まれ、チーム員は、最新のリファーマービッシュ事例に精通しています。そして、現場のさまざまな課題に取り組むだけでなく、高品質な部品の調達も担います。さらに、販売者とも連携し、技術ガイドラインを導入することで、出荷するデジタルデバイスがつねに最高水準の品質を満たすことに貢献しています。

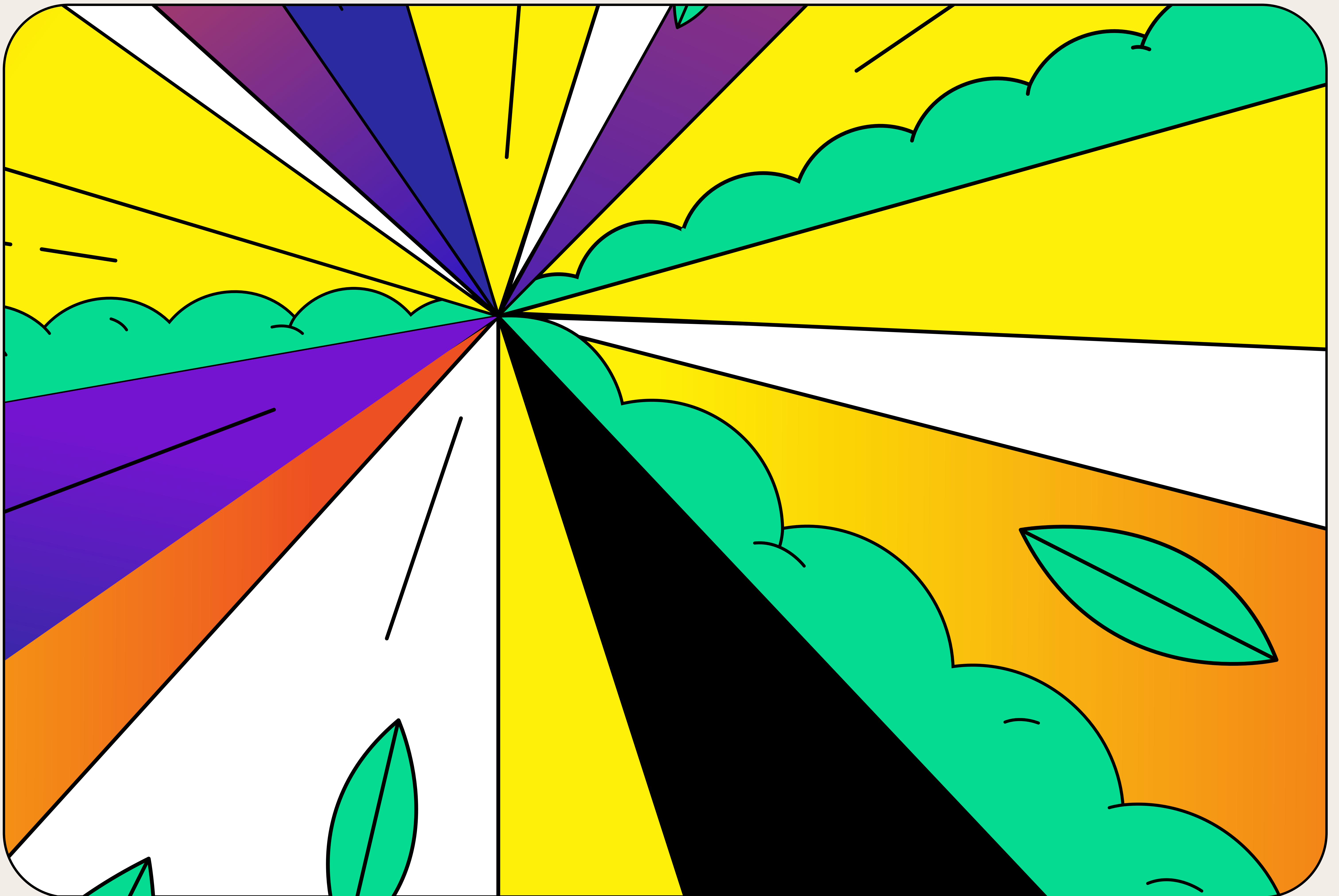
デジタルデバイスの品質管理を徹底するため、イノベーション・ラボは毎月100台のミステリーオーダー（匿名による注文）を行っています。

出荷するデジタルデバイスは、徹底的な検品はもちろん、場合によっては、販売者とともに改善行動計画を策定します。

販売者と密接に連携することで、商品の品質を高い水準で安定させることが可能になります。同時に、業界全体の水準も引き上げることに繋がります。その結果として、すべての人にとってリファーマービッシュ品のマーケットプレイスがよりよい選択肢になるという好循環が生まれるのです。

Back Marketの ミッション

B Corp認証、ミッション委員会





社会、環境、従業員、お客様、全てのステークホルダーにとっての利益を考慮して事業活動を行う企業に与えられます。

B Corp (Bコープ) 認証の取得

2023年4月、Back MarketはB Corp (Bコープ) 認証を取得しました。これにより、パタゴニアやベン&ジェリーズ、ダノンなどより良い社会をめざして事業活動を行う6,000社以上の企業で構成されるコミュニティの一員となりました。

B Corp認証は、単に利益を追求するだけでなく、企業の活動に関わるあらゆるステークホルダーへの配慮がされていたり、商品の生産過程で使用するエネルギーへの対策を実施していたりと、さまざまなポイントが評価対象として審査される認証ラベルです。

B Corp認証の意義

B Corp認証を取得するには、企業ガバナンス、雇用、地域社会、地球環境、そして顧客の5項目で高水準のスコアが求められます。第三者機関により、各分野において厳格に評価された後に、80点以上のスコア獲得した企業がB Corp認証を取得できます。Back Marketは2023年4月に、93.2点のスコアを獲得し、B Corp認証を取得しました。

B Corp認証の取得に向けた準備作業は、会社の方向性を再確認する意味でも、貴重な機会になりました。持続可能な社会をめざすという目標に確信が持てただけでなく、成長するために必要なこと、改善すべき点について重要な示唆を得ることができました。93.2点というスコアに慢心することなく、2026年の再認定に向けて、より高い目標を掲げて取り組んでいます。



93.2

2023年4月にB Corp認証で取得したスコア



ミッション委員会のご紹介

「リファービッシュ」という新たな市場の開拓を進めるには、その役割を担う人材も必要です。ミッション委員会は、より良い社会の構築に向け、進むべき道を示す責任を担っています。

当委員会は、ミッション主導の企業であるための法的要件であり、自社やお客様、販売者、パートナーなどそれぞれ異なる立場の代表者として、Back Marketの信念をもとに活動しています。

委員会のメンバーは、リファービッシュ業界のリーダーやサステナビリティの専門家たちで構成されており、社内外への情報発信を行うとともに、専門性の高い知見やアドバイスを提供しています。



ゲイ・ゴードン・バーン

米国修理協会 (US Repair Association) 事務局長
米国・ニューヨーク

エンタープライズIT業界で40年にわたるキャリアを有しています。修理事業の存続を推進する委員会にボランティアとして参加し、リファービッシュに関する推進活動を開始。これを契機に2013年に「修理する権利 (Right To Repair)」連合の立ち上げを行いました。



エヴァ・グウェンス

Fairphone CEO (2018年～2023年)
オランダ・アムステルダム

地球環境への負荷を最小限に抑えたスマートフォン「Fairphone (フェアフォン)」の元CEO。また、サステナブル経営を導入したチョコレートブランド「トニーズ チョコロンリー」などのミッション主導型企業を、長年率いた実績を誇っています。



トーマス・プラーン

Back Marketマーケティング担当上級副社長
フランス・ボルドー

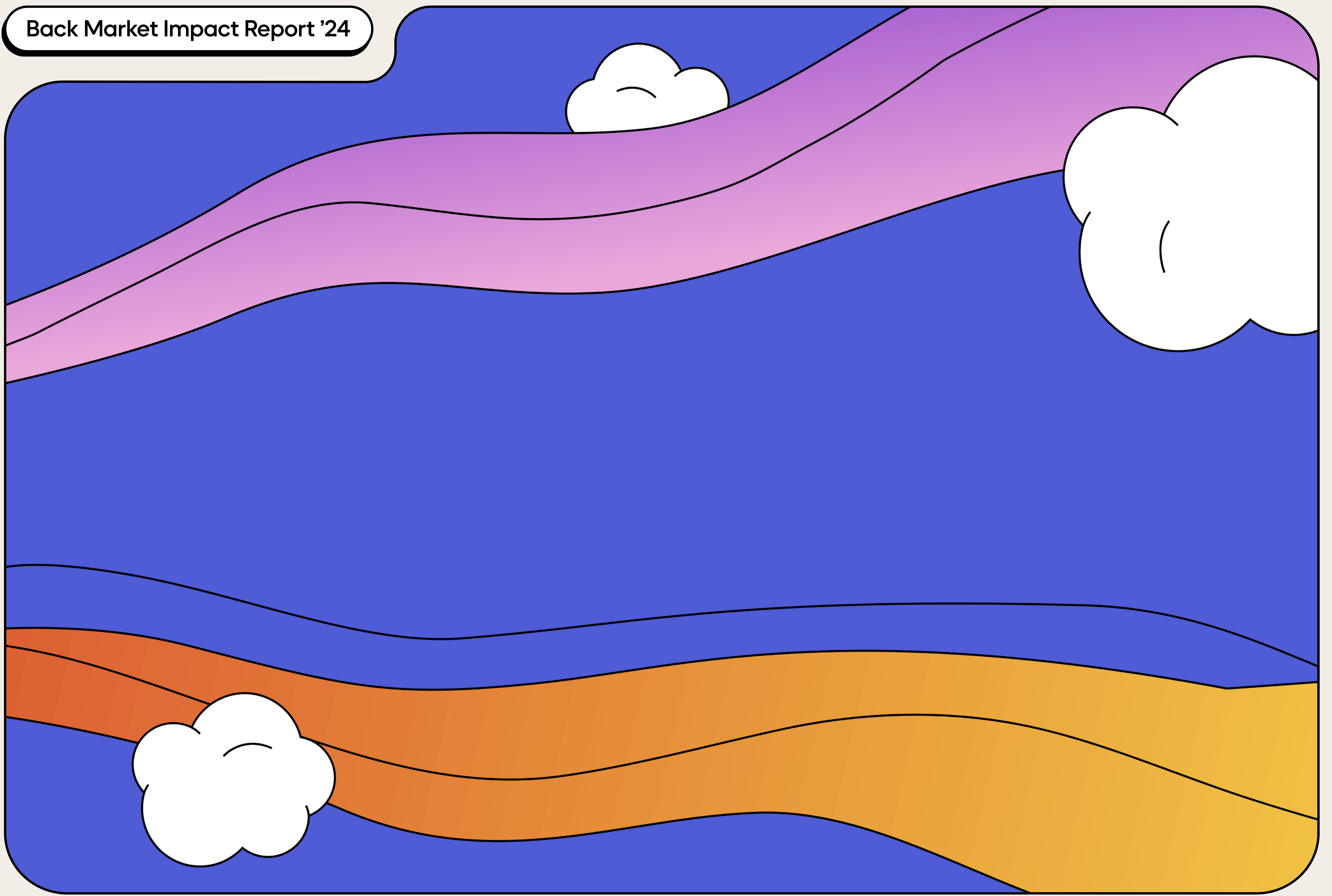
Googleにて英国、EU、アジア地域に向けたマーケットプレイスの拡大とデジタル変革を率いてきた経験を有しています。2021年よりBack Marketに入社。



コーネリア・ゴメス

General Atlantic ESG担当グローバル責任者
英国・ロンドン

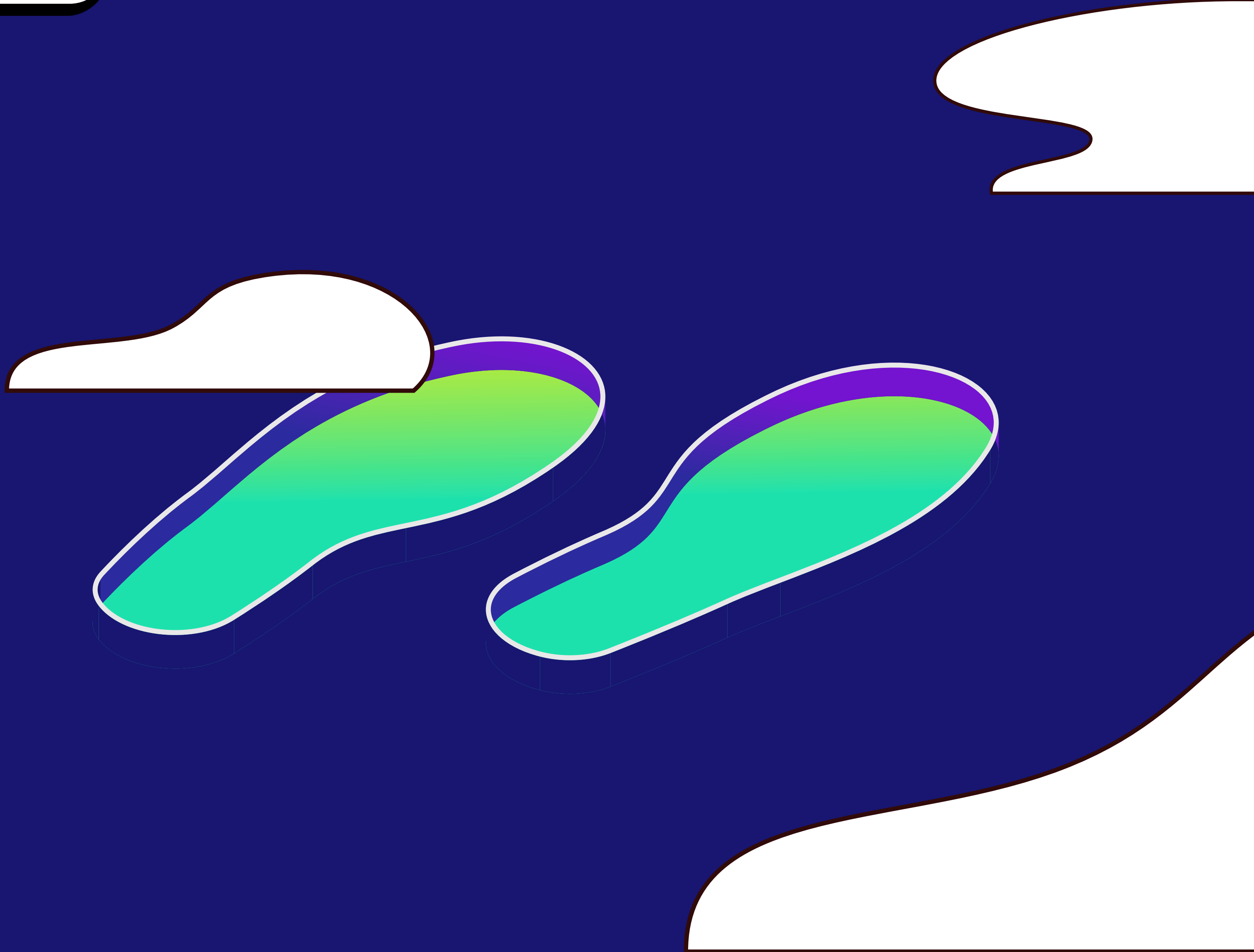
環境、社会、ガバナンスの分野での経験をもとに、Back Marketの投資先であるジェネラル・アトランティックで戦略を統括しています。同社のグローバル事業におけるサステナビリティの取り組みを推進しています。



04

サステナビリティに 対する取り組み

脱炭素化戦略、SDGs



脱炭素化には一定の結果を出している一方で、Back Marketも他の企業と同様、事業を行う上で二酸化炭素を排出しています。そこで、マーケットプレイス事業に関わるプロセスの中で、二酸化炭素がどう排出されたのかを測定し、カーボンフットプリントの可視化を図っています。

2023年におけるBack Marketのカーボンフットプリント*

タイムライン	活動内容	二酸化炭素排出量の合計 (トン)	全体に対する比率
販売前の準備	検査・修理・整備	30,310	31%
	お客様からのデバイス回収	7,975	8%
販売中のプロセス	物流	16,693	17%
	マーケティング活動	8,320	8%
	梱包作業	5,160	5%
	プラットフォームの運営と維持	2,930	3%
	事務用品の購入およびサービスの利用	2,582	3%
	オフィス運営や出張など	1,300	1%
販売後	お客様が利用するデバイスの電力消費	23,982	24%

* Back Marketで販売した商品が地球環境に与える影響も含む。
例) 商品の仕入れ、修理および販売後の商品が排出する二酸化炭素の量

Back Marketの脱炭素化戦略

企業としての成長をめざしながら、二酸化炭素量を抑制できないか。Back Marketは、この命題に取り組むにあたり、持続可能な企業経営を自社で実践しながら解決方法を模索しています。

デバイスの選択肢は、新品だけではありません。お客様に「リファーマビッシュ品（整備済製品）」という新たな選択肢を提供することで、Back Marketは、2014年の設立以来130万トン以上の二酸化炭素排出の抑制に貢献してきました。

**38万
2,000トン**

2023年の1年間においても、Back Marketがリファーマビッシュ品（整備済製品）の利用を促進したことで、38万2,000トン以上の二酸化炭素換算排出量*の削減につながっています。

*2023年1月1日～12月31日までにBack Marketで販売された4,632,866台のリファーマビッシュ品（整備済製品）で計算

ADEME Study, Sept. 2022

<https://www.backmarket.com/en-us/c/news/impact-of-refurbished-on-environment>



炭素効率を図る「カーボンP&L」

炭素効率の新たな測定方法として「カーボン損益計算書（カーボンP&L）」があります。

このカーボンP&Lを用いて、Back Marketで販売されるリファービッシュ品（整備済製品）によって抑制された二酸化炭素排出量と、マーケットプレイスで生み出される全ての二酸化炭素を測定しています。

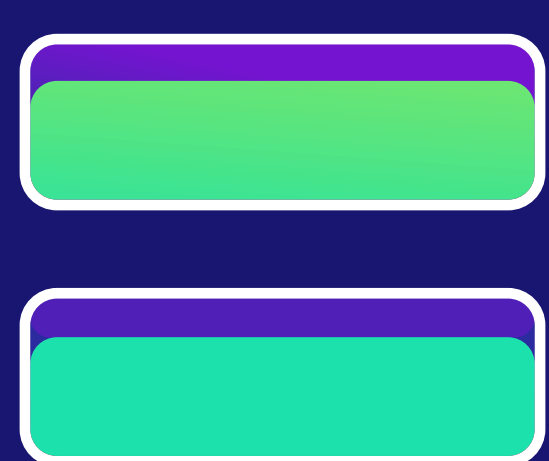
Back Marketでは、マーケットプレイス事業で排出される二酸化炭素量1トンにつき、10.35トンもの二酸化炭素を抑制したという測定結果が出ました。これは、リファービッシュ品の流通がもたらす二酸化炭素の削減効果によるものです。

この数値をつねにチェックしながら、事業活動による環境負荷を最小限にできるよう企業努力を重ねています。

Back Marketは、2024年から、カーボンP&Lの改善には特に力を入れて、さまざまな取り組みをスタートさせています。

たとえば、地球環境に最も配慮しているホスティングプロバイダーの選定やエコデザインの梱包資材の採用。また、出張ガイドラインも環境負荷をなるべく下げるように見直しました。

カーボンP&L

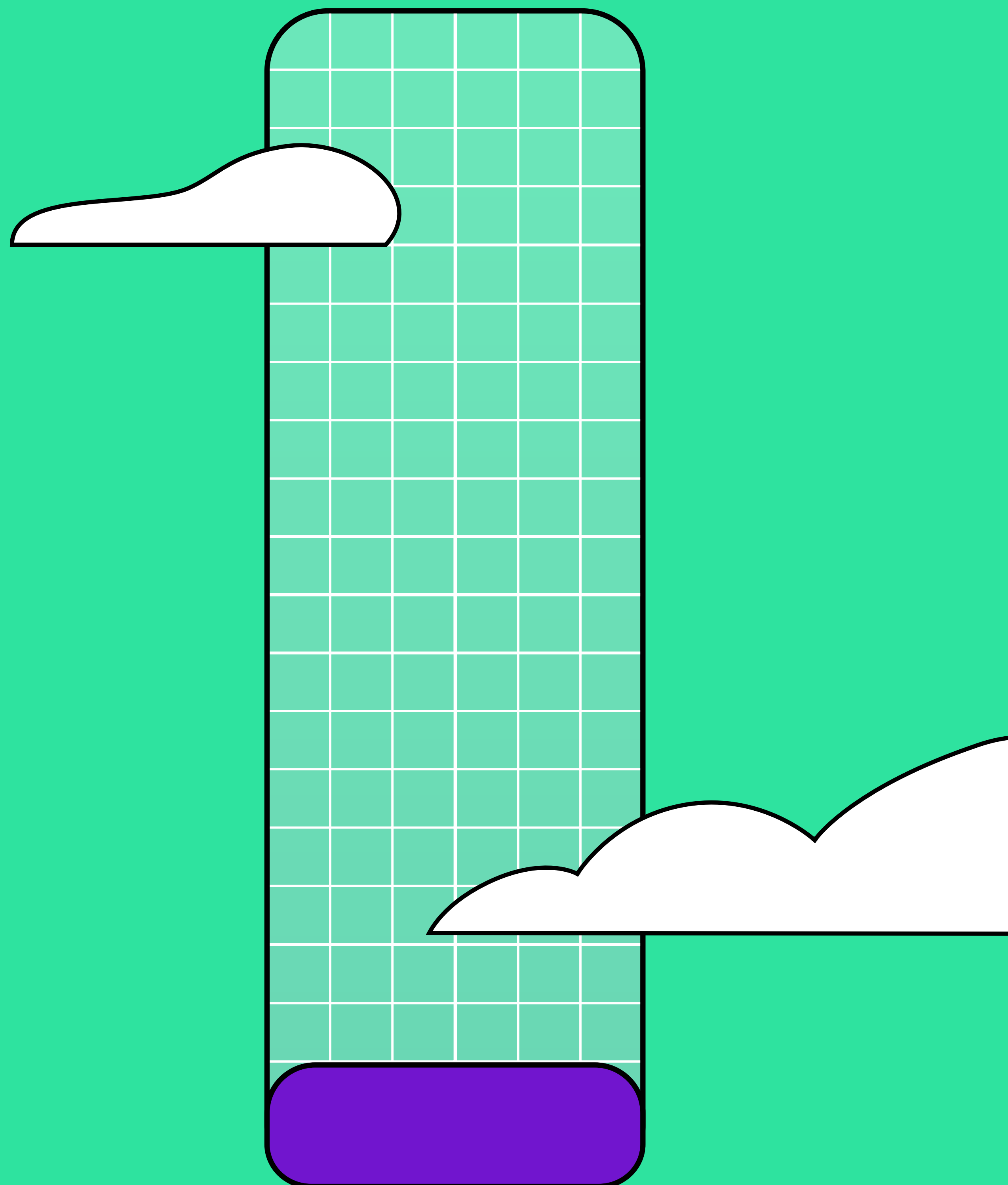


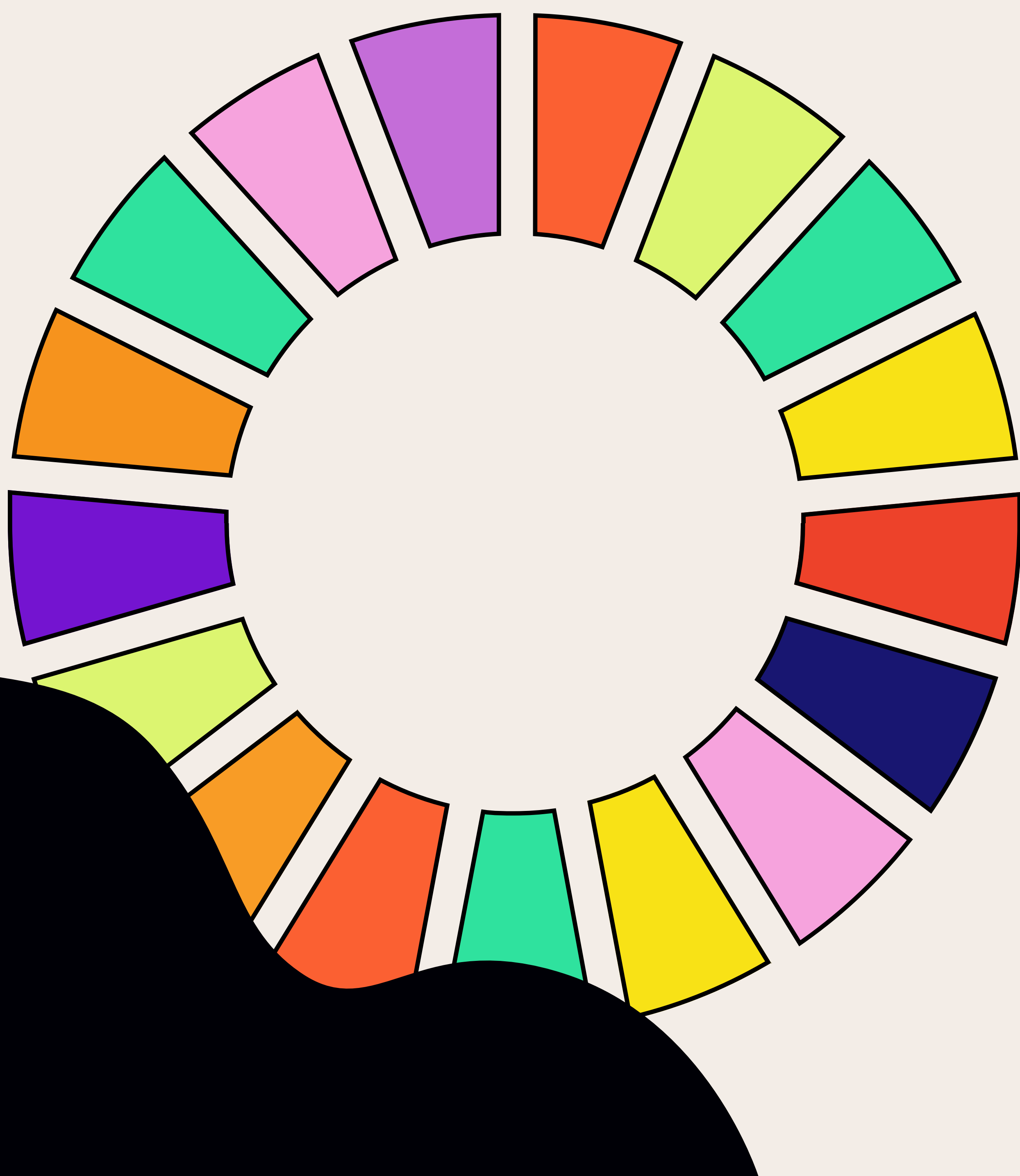
Back Marketのマーケットプレイスが
排出した二酸化炭素換算量に対して、
抑制できた二酸化炭素換算量の割合

二酸化炭素換算の抑制量

二酸化炭素量換算の排出量

二酸化炭素量1トンにつき、
10.35トンもの二酸化炭素を抑制





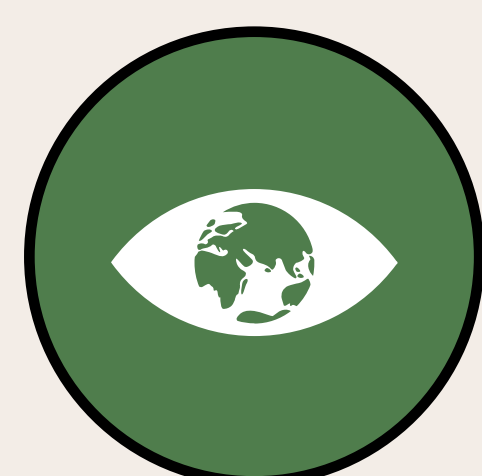
自社の成長や環境課題に対して個別に目標設定を行い、その達成をめざすことはもちろん、社会課題への貢献も重要なミッションです。

そのため、国際連合が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）に沿った、社内方針の策定にも、取り組んでいます。

Back Marketがより積極的に取り組む7つのSDGs項目



つくる責任 つかう責任



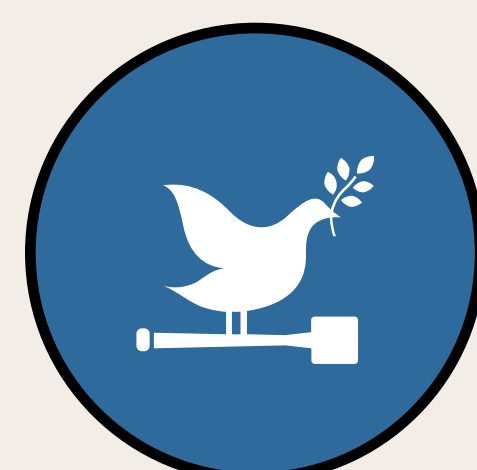
気候変動に
具体的な対策を



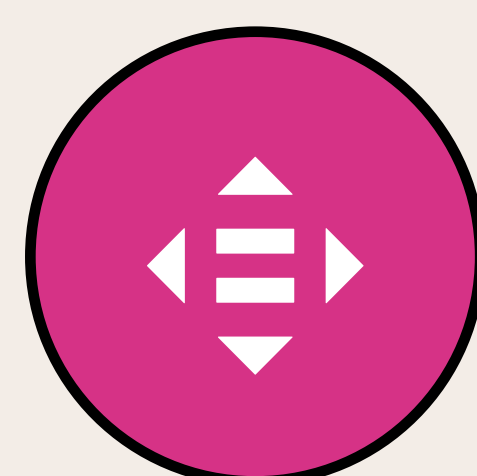
働きがいも経済成長も



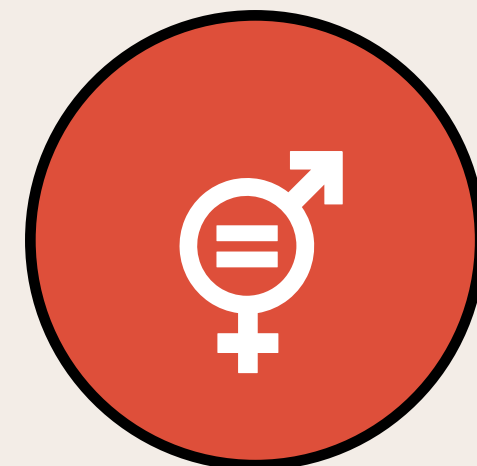
質の高い教育をみんなに



平和と公正をすべての人に



人や国の不平等をなくそう



ジェンダー平等を実現しよう

サステナビリティロードマップ

2024年は、Back Marketが初めて策定する「サステナビリティロードマップ」の年です。ミッション主導型企业として、自社の様々な目標達成に向けた指針となります。

サステナビリティロードマップは、地球、人々、コミュニティの3本柱で構成されています。

進捗状況を測定するための定量的な目標は現在検討中ですが、各分野におけるもっとも貢献すべき項目と将来像は、すでに決定しています。



サステナビリティロードマップの 3つの柱

地球

- 新品でなく、リファービッシュ品を選ぶお客様が増えるように働きかける
- Back Marketの事業活動が地球環境に与える負荷を軽減し
カーボンP&Lの数字を改善する
- テクノロジー産業が地球環境に及ぼす悪影響を周知し
サーキュラーエコノミー（循環型経済）の利点を発信し続けること
- 買取プログラムをより強化し、デジタルデバイスの再生サイクルを
Back Marketで完結させる

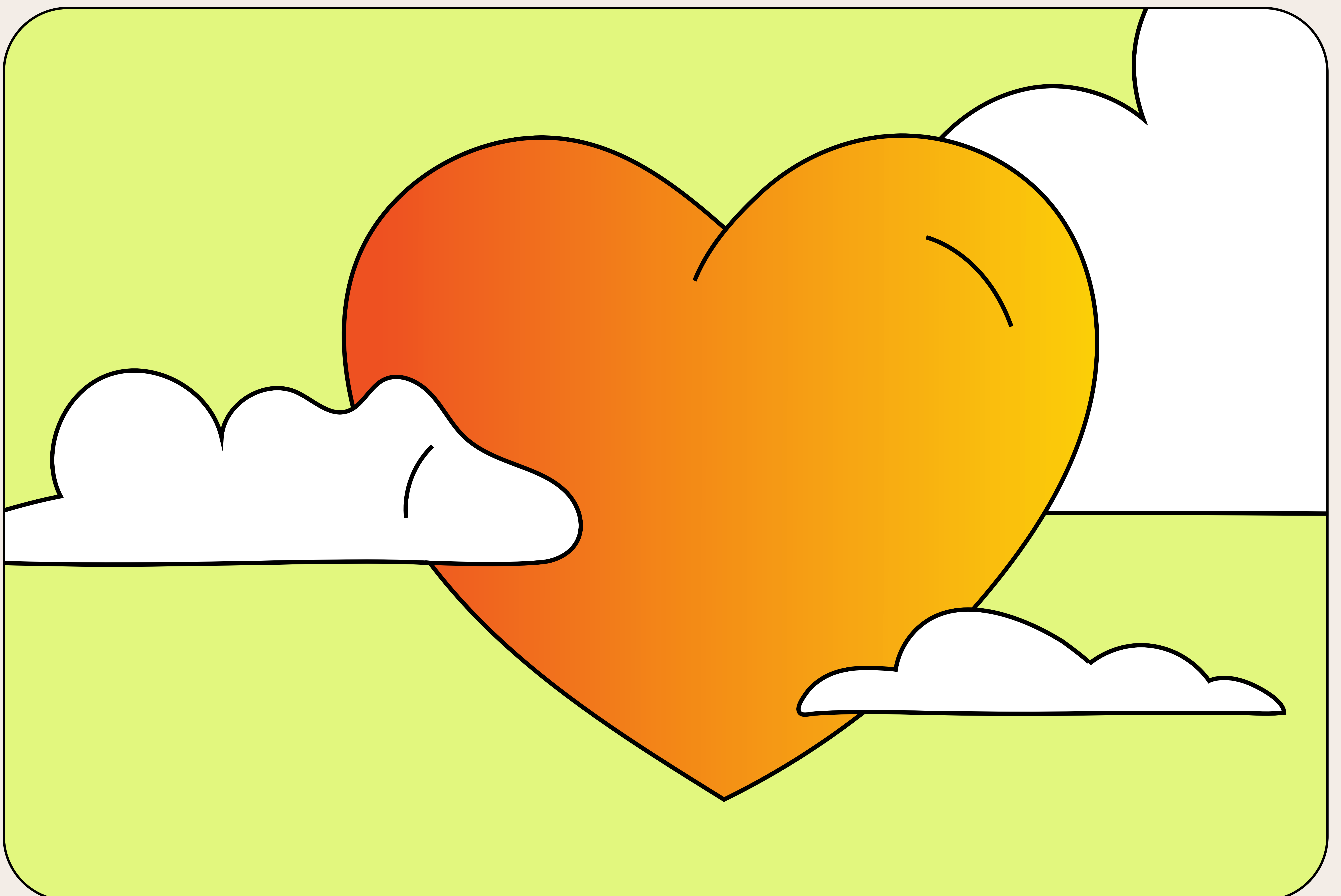
人間

- 成長するための新たなチャレンジができる環境整備を行うとともに
フェアでわかりやすい報酬体系を整備し、従業員の成功を支援する
- 多様性、公平性、受容性を育む企業文化を確立する
- ひとりひとりの従業員満足度を高く維持し、
社内で生まれる新しい価値観の醸成を促進する

コミュニティ

- 持続可能な社会を実現したいというBack Marketの理念に共鳴し
誠実に事業活動を行なっている取引先やパートナーと緊密に連携する
- 販売者の成長をビジネス面で支援するとともに、地球環境に配慮した
サービス提供を通じて、環境負荷の軽減にも寄与する
- 社会貢献活動を通じて、Back Marketだけでは解決できない
より大きな社会問題の解決を支援する

Back Marketの 社会貢献活動



Back Marketの信念



B Corp認証を取得したミッション主導型の企業として、日々の業務だけには留まらない、社会課題を見据えた変革を推し進めることが求められています。

Back Marketは長年にわたり、その理念に賛同してくれる団体への支援を行っています。主には電子廃棄物の削減、情報格差の解消、リファーマービッシュ業界における雇用創出の3つの取り組みに注力しています。

電子廃棄物の削減をめざして

01

2021年、Back Marketは、Closing the Loop Foundation (CTL) とパートナーシップ契約を締結しました。CTLは、アフリカにおける不法な電子廃棄物を減らすために、オランダで設立された団体です。

CTLを通じて、Back Marketはナイジェリアでの清掃作業を支援しながら、地元住民に電子廃棄物のリサイクルと廃棄を安全に処理する方法についてアドバイスや知見を共有しています。この2つの取り組みは、地元コミュニティに新たな雇用を生み出しています。

情報格差をなくすために

02

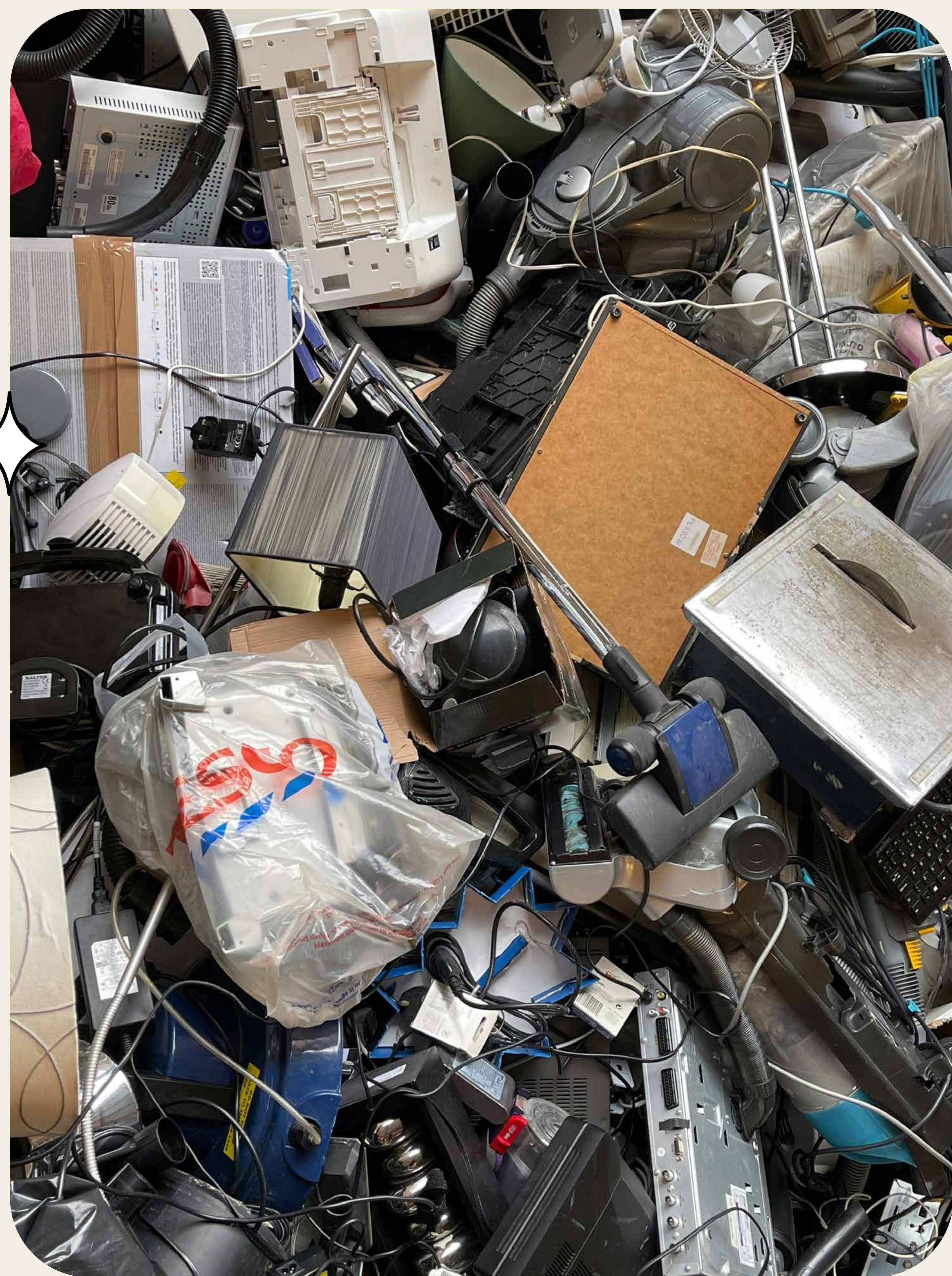
テクノロジーやインターネットの恩恵を得られる人とそうでない人の格差、いわゆる「情報格差（デジタルデバイド）」は拡大し続けています。

2023年に国際連合が実施した調査によれば、世界の人口の3分の1にあたる約26億人がインターネットを未だに利用できない状態に置かれている⁹  と言われています。

この情報格差により、多くの人々が情報端末を十分に使いこなせないため、病院の予約や求職活動に不自由を感じるほか、大切な人とのコミュニケーションも希薄になりがちです。

そこでBack Marketは、恵まれないコミュニティにデジタルスキルを教える団体「Emmaüs Connect」を2021年より積極的に支援しています。

これにより、人々が情報端末を上手に使いこなし、よりつながりのある生活を送れるようなサポートに努めています。





新たな雇用の創出に向けて

03

Back Marketは2022年よりフランスの専門学校であるCFA Ducretetと提携し、リファーマービッシュの技術を磨いてもらうための職業訓練プログラムを提供しています。

この職業訓練プログラムで、参加者は5週間から10週間の訓練を積み、リファーマービッシュで必要になる専門知識を習得できます。これにより、将来にわたって活躍できるキャリアを築き上げる道が開かれます。

参考文献

01 - Hello, we're Back Market

1&2

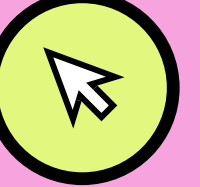
情報通信産業に起因する二酸化炭素換算排出量の評価: 2024年の傾向と提言
ロトフィ・ベルギル、アハメド・エルメリギ 共著
ジャーナル・オブ・クリーナー・プロダクション発行 177巻 2018年

Lotfi Belkhir, Ahmed Elmorigi. Assessing ICT global emissions footprint: Trends to 2040 & recommendations. Journal of Cleaner Production. Volume 177. 2018 

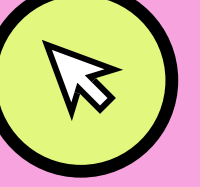
02 - リファーマビッシュは未来そのもの

3

ADEME リファーマビッシュ品が地球環境に与える影響評価

ADEME, Assessment of the environmental impact of a set of refurbished products 

4&5

2023年10月 電子廃棄物に関する世界保健機関 (WHO) のレポート
World Health Organization, Electronic waste (e-waste), October 2023 

6

2023年3月 YouGov Global社の調査「中古車の購入を検討する消費者の実態とは？」

YouGov, Global: How many consumers would consider purchasing a second-hand car?, March 2023 

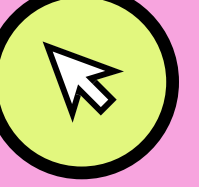
7

2023年10月 修理する権利連合の委員会「買い替えでなく修理を選択することで消費者が得るメリット」

European Parliament, Right to repair: incentives for consumers to repair rather than replace, October 2023 

8

2014年 欧州委員会環境総局監修「廃棄物管理と資源の有効活用に関する人々の意識」

European Commission, Directorate-General for Environment, Attitudes of Europeans towards waste management and resource efficiency, European Commission, 2014 

9

2021年12月 国連 国際電気通信連合「29億人がインターネット未経験」
The United Nations, ITU: 2.9 billion people
still offline, December 2021 